◎「八王子神社碑」　（大正八年九月）

（題字）貴族院議員正三位勲四等公爵　徳川頼倫　篆額

（文章）伊豆韮山　江川英武　撰

（書）　南多摩郡長　内山由三郎　書

八王子祠は由来する処久し。文徳の朝（８５０～８５８）平安の僧妙行という者、海内の名山を歴渉し錫を武蔵多摩郡深沢山址に駐め、菴（庵）を結び修行す。近旁の士女其の徳を慕い来たり集まる者多しと曰う。妙行之を厭い避けて山中に入りて住す。老樹陰森鬼気人を襲う。夜闌（たけなわ）毎風雷谿谷に震い山精木魅、出没変幻、或いは巨蟒（うわばみ）盤繞（めぐりまとう）口を開いて啖（喰う）わんと欲す。妙行端然として静座誦経已まず。一夜神人あり自ら牛頭天王と称し八王子を率いて蛇を斬り魍（怪物）駆り来たる。天王は則ち素盞嗚尊にして八子はその五男三女なり。妙行地を此に相し祠を建て之を祭り八王子権現と称す。時に延喜十六年（９１６）三月なり。明年更に一宇を営み華厳蔵院と名づけ権現別当に充つ。天慶二年（９３９）勅して扁額及び田若干を賜い号して牛頭山神護寺と曰う。天正中（１５７３～１５９１）北条氏照、居を此に移す。夙に武勇を尚び祠を崇め以って鎮護の神となす。因

りて八王子を以って其の城に名づく。豊臣氏関東に向かうや上杉前田の両将、兵を分かちて来たり攻め城陥ち祠亦兵燹（兵火）に罹なる。元禄中（１６８８～１７０３）伊勢の人鉄山無心なる者あり。遺址について之を修築す。是より祀典絶えずという。頃者元八王子有志等謂わく今茲（今年）鎮座一千年に当たり悠久の歳月、神の呵護（しかりまもる）する所、以って今日に迨ぶ。乃ち碑を植て其徳紀せんと欲すと。余が家曾て此の地に宰たるを以って来たりて文を撰くらんことを請う。縁起の書を按（調）べこれを作る。之が辞に曰く。

維れ八王子。権現の祠。高僧之を創め。名将之を崇ぶ。墜典（すたれた儀式）茲に挙がり。祭祀衰えず。悠々天地。霊徳永へに輝く。